

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 西芳寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・西芳寺は、境内の北側及び西側が山麓になっているほか、境内の林だけでなく、土塀や竹柵の外側の樹木によって、視点場外の建築物の多くは視認されないが、一部、門前の通り沿いの建築物の一部が見える場所がある。
- ・上段の枯山水庭園付近から南側を遠望すると、木々の間から建築物や造成地が見える。



1-1 衆妙門の内側から南への眺望
：門前に建つ建築物が見える。



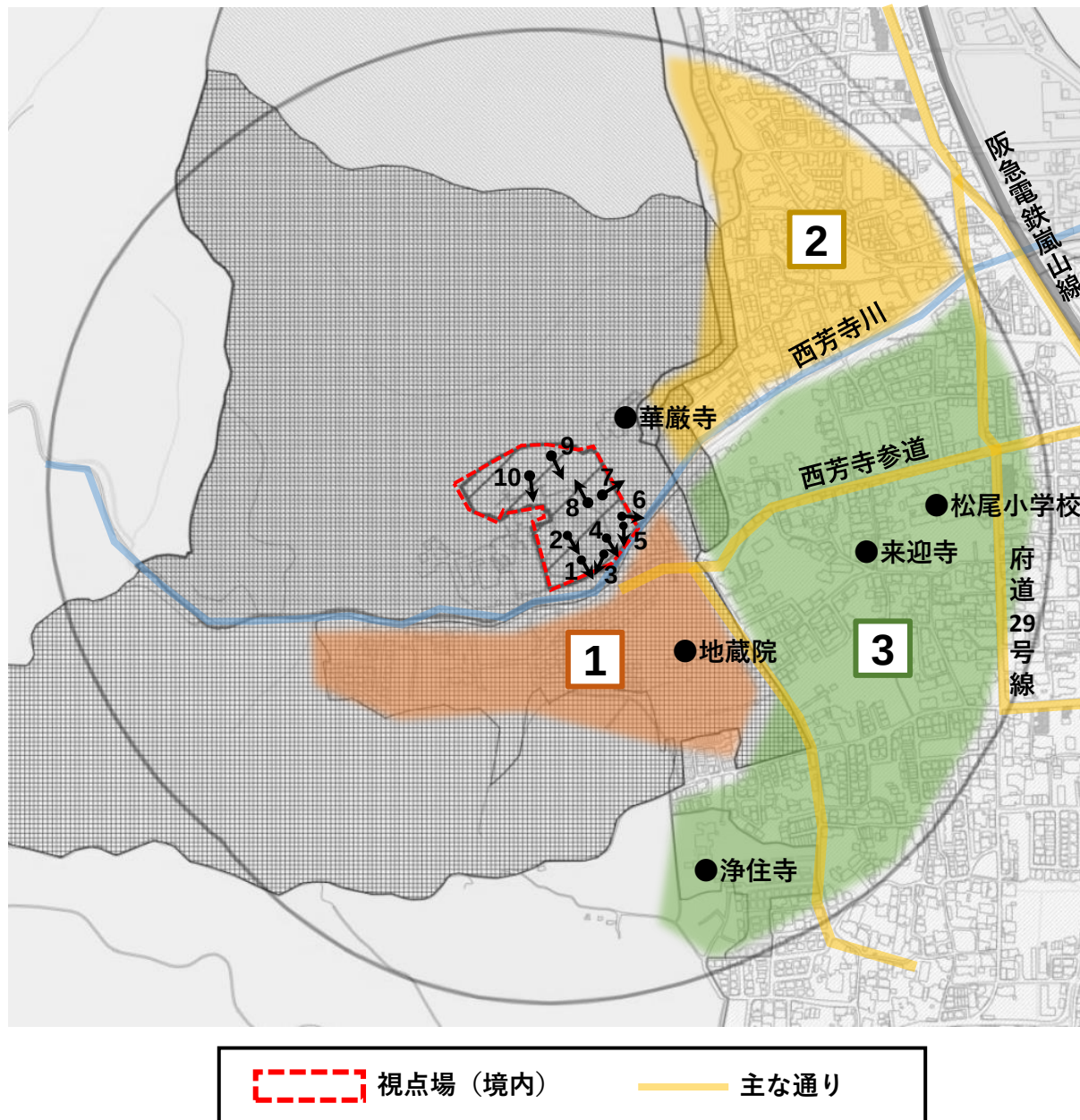
1-2 境内から衆妙門への眺望
：門前の建築物の一部が見える。



1-3 下段の庭南西から中門への眺望
：土塀の外側に植えられている樹木の間から門前の建築物の一部が見える。



1-4 湘南亭から南東への眺望
：後方の樹木によって、境外の建築物は視認されない。



--- 視点場（境内） ——— 主な通り



1-7 漂北亭から東への眺望
：竹垣の外側に樹木が植えられており、境外の建築物は視認されない。



1-8 下段の庭から北への眺望
：竹林があり境外の建築物は視認されない。



1-9 指東庵から上段の庭への眺望
：北側は山で境外の建築物は視認されない。



1-10 上段の庭から南への眺望
：樹木の間から造成地が見える。



1-5 下段の庭南から南への眺望
：土塀の外側の樹木によって、境外の建築物は視認されない。



1-6 総門付近から南東への眺望
：下段の庭園から総門方向を見たときに樹木の間から門前に立つ建築物の一部が見える。

■ 2 西芳寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・西芳寺周辺には浄住寺、地藏院、華嚴寺、月読神社といった古くからの寺社が数多くあり、西芳寺門前や参道南側の地域には古民家が多数残っている。
- ・古民家と近年建築された住宅が混在した町並みを形成している。周辺には、空地や造成地があるほか、田畑も残っている。また、西芳寺川沿いは緑が多い。



2-1 西芳寺衆妙門前から南への眺望
：門前や丘上の建築物の一部が見える。



2-2 西芳寺川から西への眺望
：住宅と西芳寺周辺の木々が見える。



2-3 東海自然歩道から西への眺望
：西芳寺の裏から月読神社に続いている
西山、古民家、造成地が見える。



2-4 地藏院前から南への眺望
：新旧の住宅が見える。



2-5 田中橋から西への眺望
：西芳寺川沿いの住宅と西芳寺方面の
山が見える。



2-6 松尾郵便局前から東への眺望
：宅地の中に残っている田や、
阪急電鉄嵐山線の踏切が見える。



2-7 西芳寺参道から西への眺望
：沿道に並ぶ古民家が見える。



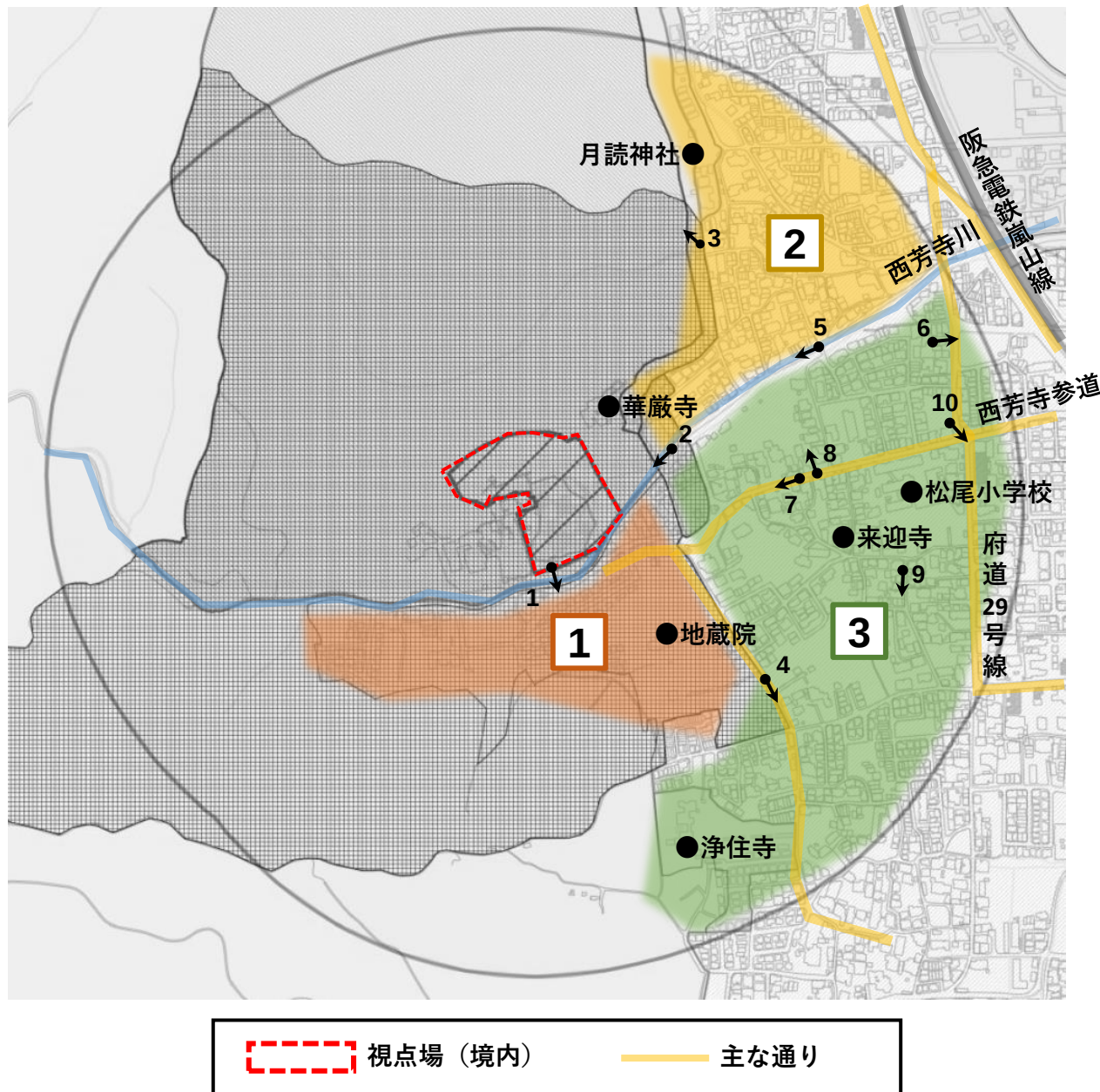
2-8 西芳寺参道の小路から北への眺望
：路地になっており、古民家が見える。



2-9 松尾小学校南側の小路から南への眺望
：新旧の住宅が見える。



2-10 松尾交差点から南東への眺望
：松尾のシンボルである杉の御神木のほか、
マンション、古民家が見える。

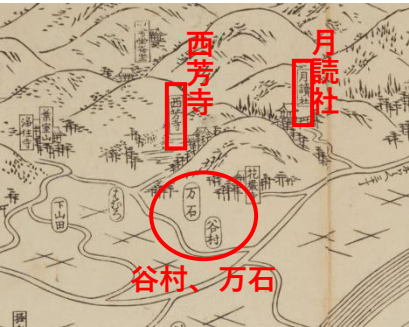


3 西芳寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 西芳寺南側		参考写真等
ア エリアの歴史等	・下山田村にあたり、藤原為房の二男顕隆を祖とする葉室氏が山荘を営んだことから当地付近は葉室とよばれた。 ・下山田村を中心とする洛西丘陵では寛永年間(1789-1801)に孟宗竹が植林され、地域屈指の竹とタケノコの産地となり、竹は樋や数々の建築資材となった。明治初期の調べでは、タケノコ・マツタケ・茶が京都に搬出されていた記録が「京都府地誌」に記載されている。	 3-1 「京圖鑑綱目 名所手引」宝暦4年(1754)：「下山田」の記載がみられる。
イ 町並みの特徴	・平安時代に葉室家の荘園があった場所であり、付近には葉室の地名が残っている。810年に開創されたとわれ、葉室家の菩提寺として栄えた浄住寺、西芳寺を再興した夢想國師を開山とする地蔵院(竹の寺)といった寺社がある。さらに古民家が建ち並び、その落ち着いた佇まいは、往時の葉室の里の面影をしのばせる。今もなお伝統的民家が残っており、道路に対して庭を見せるように手入れされた「作り庭」が分布している。 ・西芳寺の南側の丘には、近年建築された住宅地がある。 文化財等：地蔵院方丈、地蔵院庭園(名称)	 3-2 地蔵院の参道
ウ 景観形成方針	西芳寺周辺特別修景地域 松尾については、豊かな緑が保全されており、西芳寺南側の山ろくの市街化区域の宅地も、後背地の山地と一体的に緑を主体とする自然景観を保持している。世界遺産の西芳寺(苔寺)周辺の住宅地では、西芳寺の境内の緑と一体となった景観を保全する。	 3-3 古民家が並ぶ町並み
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は日本瓦ぶき和風外観とする。西芳寺南側山ろく部の土地形質の変更や建築物等の和風デザイン等の規制の強化を図る。	 3-4 石積みや擁壁のある住宅地

2 西芳寺北東側		参考写真等				
ア エリアの歴史等	・旧松室村にあたる。「松室」の文字は、寛正3年(1462)の松尾大社文書に初見する。当村は桂川西岸用水の管理・用水の配合など地域他村の領主で構成された一の井組・二の井組の中心的存在であった。 ・明治初期の調べでは、物産に菜類・マツタケ等が記される。	 3-5 「懷寶京都細繪圖 銅版新鑄」慶應4年(1868) ：「松室里」の記載がみられる。				
イ 町並みの特徴	・本エリアは、856年に現在の地に移された月読神社を軸として発展したとされる。江戸時代には、松室村と呼ばれるようになった。月読神社の北400メートルに松尾大社があり、月読神社は江戸時代初期から松尾大社の摂社となっている。 ・エリア南側には、西芳寺奥の山から流れる西芳寺川がある。西芳寺川沿いには樹木が植えられており、緑が多い。 ・エリアには、1723年に開かれ、鈴虫寺として有名な華厳寺、1176年に創建された谷ヶ堂最福寺の延朗堂がある。多くは宅地であり、西山の山際から府道29号線まで住宅が立ち並び、古民家も残っている。 文化財等：かぐや姫竹御殿月読神社境内（史跡）	 3-6 月読神社				
ウ 景観形成方針	<table><tr><th>風致地区</th><th>山ろく型建造物修景地区</th></tr><tr><td>松尾の山際は、山並みが急傾斜で立ち上がっているため、山際の眺望景観を保全する。</td><td>西山の山ろく部は、世界遺産の西芳寺等の歴史的資産があり、その周辺の山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。</td></tr></table>	風致地区	山ろく型建造物修景地区	松尾の山際は、山並みが急傾斜で立ち上がっているため、山際の眺望景観を保全する。	西山の山ろく部は、世界遺産の西芳寺等の歴史的資産があり、その周辺の山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。	 3-7 華厳寺
風致地区	山ろく型建造物修景地区					
松尾の山際は、山並みが急傾斜で立ち上がっているため、山際の眺望景観を保全する。	西山の山ろく部は、世界遺産の西芳寺等の歴史的資産があり、その周辺の山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。					
エ 建築計画等に求める配慮事項	<table><tr><td>建築敷地の桂川側の緑化や建築物の形態・色彩等のコントロールが重要である。</td><td>建築物は、特に西芳寺周辺では、和風の勾配屋根を設け、壁面の色彩を自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色とする等、和風基調の町並み景観を形成する。</td></tr></table>	建築敷地の桂川側の緑化や建築物の形態・色彩等のコントロールが重要である。	建築物は、特に西芳寺周辺では、和風の勾配屋根を設け、壁面の色彩を自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色とする等、和風基調の町並み景観を形成する。	 3-8 西芳寺川沿いの町並み		
建築敷地の桂川側の緑化や建築物の形態・色彩等のコントロールが重要である。	建築物は、特に西芳寺周辺では、和風の勾配屋根を設け、壁面の色彩を自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色とする等、和風基調の町並み景観を形成する。					

3 西芳寺南東側			参考写真等
ア エリアの歴史等	・旧松尾谷村にあたり、西芳寺川流域を谷と称したことに始まり、長寛2年(1164)の安養寺領目録に「山田郷谷村」と記される。 ・元禄期(1688-1704)初期成立の「京羽二重織留」には「谷村万石村」と記され、家数67軒、うち55軒は百姓在家、7軒は社家、5軒は草庵とある。		
イ 町並みの特徴	・西芳寺周辺は墳墓の集中する地であった。 ・江戸時代には、西芳寺川・桂川の堤防の護岸工事などにおいて、松尾谷村や松室村などの近隣の諸村が協力し、その維持に努めていた。当時は専業農家が多く、マツタケや菜種などを産出していた。現在はエリアの多くが宅地となっているが、一部田畑が残っている。 ・西芳寺に向かう参道には、伝統的民家が残っている。 ・西芳寺参道の南側には、1699年に創建された来迎寺がある。周辺は細い路地となっており、住宅が並んでいる。新旧の住宅が混在しているが、松尾小学校の東側、南側まで一帯に、蔵を有する古民家も残っている。 文化財等：浄住寺本堂、位牌堂、開山堂、寿塔、浄住寺、浄住寺の庭(名勝)		3-9 「京町御絵図細見大成」慶応4(1868) ：西芳寺、月読社の手前に、谷村、万石の表記がある。
ウ 景観形成方針	風致地区	山ろく型建造物修景地区	
	松尾の山際は、山並みが急傾斜で立ち上がっているため、山際の眺望景観を保全する。	西山の山ろく部は、世界遺産の西芳寺等の歴史的資産があり、その周辺の山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。	
エ 求める建築計画等に 配慮事項	建築敷地の桂川側の緑化や建築物の形態・色彩等のコントロールが重要である。	建築物は、特に西芳寺周辺では、和風の勾配屋根を設け、壁面の色彩を自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色とする等、和風基調の町並み景観を形成する。	



3-9 「京町御絵図細見大成」慶
応4(1868)
：西芳寺、月読社の手前に、谷
村、万石の表記がある。



3-10 西芳寺参道の小路沿い
の古民家



3-11 来迎寺



3-12 浄住寺の参道

3-1 「京圖鑑綱目名所手引」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-5 「懷寶京都細繪圖銅版 新鑄」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-9 「京町御絵図細見大成」国文学研究資料館（<https://www.nijl.ac.jp>）